

SICかわらばん

SIC、入居企業、地域企業 を結ぶ情報紙 — 地域版 —

発行日：2011年4月20日(水)

地域企業紹介 12

株式会社ハイスポット

一人ひとりの社員が経営者のように 考え、行動し、成功を勝ち取る

相模大野の本社に株式会社ハイスポットの杉本社長を訪ねました。杉本社長、現在44歳。宮崎の日南市で生まれ、大学時代は鹿児島、富士通九州通信システムへの就職を期に川崎に。同社では電話交換機のシステム開発に携わる。仕事は面白くやりがいもあったがもっと大きな仕事がしたいとの思いが強く4年目で退職する。実力もあり、またバブル期で仕事はいくらでもあったので、フリーのほうに移ったという状況も独立を後押ししたようだ。

そして、1997年に、川崎市五月台の小さなアパートで有限会社ハイスポットが誕生する。1999年には元の会社の同期2人も加わる。2003年に相模大野に引越し現在に至る。相模大野を選んだ理由は取引先が新宿と新松田にあったのでその中間の相模大野を選んだそうだ。

この時、従業員は8名。2002年に神奈川県中小企業家同友会に入会、2003年に相模原中小情報処理産業振興会(Sasiia)に入会と少しずつ業界や地域と関わるようになる。

そして、転機となったのが2004年の相模原市青年工業経営研究会(通称:青工研)への入会。杉本さんはここでの経験をいくつかの言葉で表現する。「裸にされた」「磨かれた」「強くなった」「発想の枠が広がった」。今でも付き合っている総合ロックの太田社長や共伸テクニカルの桑原社長など地元相模原の経営者と出会ったのもこの時。月に1回開催されるブロック会はとても刺激的で、10人位の仲間と本気で本音で議論したという。(2面につづく)

ウェブサイト: <http://www.hispot.co.jp/>

株式会社ハイスポット 代表取締役社長 杉本 祥一
所在地: 相模原市南区相模大野8-3-10 創業: 1997年6月
従業員数: 40名 資本金: 1200万円 売上高: 2.3億円 (2010年実績)
事業内容: 医療系システム開発、組込システム開発、各種システム開発
ITサポート事業 (ホームページ制作、SEO、MEO)



お互いがお互いの会社の問題、課題をとことん議論する。突き詰めていくと原因は「経営者自身」なのだと。杉本さんもブロック会に社内体制や経営計画などのテーマを持ち寄ったが、「弱い自分」や「独りよがりな自分」に気づかされたという。社長という立場は批判されにくい立場、本当のこと、痛いこと言ってくれる人は社内にはいない。青工研での体験は得がたいものだったろう。

2008年に社員40名、売上3億6千万を達成するが、リーマンショックで売上が大きく落ち込み3億円を割る。少しずつ回復してきているが、スタッフの派遣や請負を続けていたらまた同じことが繰り返されるという危機感がある。同社には画像や通信に関する技術や医療分野で培った経験とノウハウがある。時間はかかるが、これを武器に自社製品を持つメーカーへの脱皮を目指している。

今、アンドロイドを搭載した携帯端末でCT画像を見ること

のできる医用画像システムの開発に取り掛かっている。営業力強化も優先課題とし、地域密着型ITサポート事業も立ち上げた。インターネットを活用した集客UPのノウハウを販売するホームページ制作支援サービス「イジロボ」がその先鋒だ。また、複数の企業がそれぞれの特技を持ち寄り、ビジネスを発展させるためにソフトウェア企業の工業団地ビルのような構想も考えている。

最後に、どんな時に経営者として喜びを感じますかと聞いてみた。一つ目は、今まで手がけたことがないハイレベルな仕事を受注した時。ハイスポットの実力が顧客に認められたこと、信頼を勝ち取ったことがとてもうれしいと言う。二つ目は社員の成長。長期の海外出張から帰ってきた社員が自主的に何でもやろうという姿勢に変化していた時すごくうれしかったそう。 「一人ひとりの社員が経営者のように考え、行動し、成功を勝ち取る」そんな会社を目指している。



岩田 満さん

中村 嘉伸さん

入居企業紹介

18

株式会社QRS

分散型発電システムの導入・監視サービスで、地産地消型の電力エネルギーを提案

株式会社QRSは、創業者の岩田社長が、長年にわたり培った事業所用発電システムの設計開発経験を活かし、2004年に「発電システムドットネット株式会社(旧社名)」を設立、そして、分散型発電システムの課題解決を図るために事業に着手します。

2000年代初頭頃は、電力自由化の追い風を受けて、「分散型発電システム」は電力使用料金削減に繋がるために需要家のメリットが多く、大手石油会社等が積極的に事業を推進し普及・拡大していましたが、当時の監視システムは、監視室内に製造会社毎の監視装置が並び、操作員の監視が不便であるという課題がありました。

そこで、QRSは、同一プラットフォームで、かつWEB上で遠隔監視できるシステムを自社開発しASPサービスを展開すると、事業化できるのではないかと考えたのです。そして予想どおり利便性・低価格から多くの顧客を掴むに至りました。また、QRSでは、その後、大学研究室の共同研究によりロングライフ化を目指した故障予知システムや、導入シミュレーションサービスなどの開発も行い、ラインアップ化を図っています。

QRSのコンセプトは、省電力。監視サービス

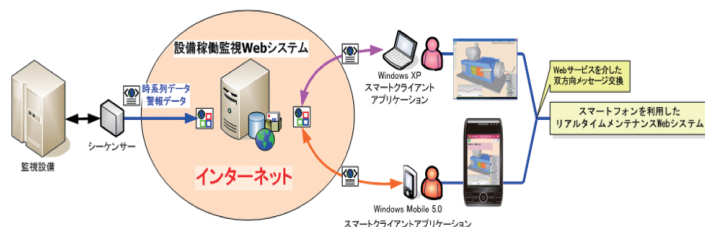
も電力を供給する側の立場にあり、消費者以上に省電力、電気使用量を極力削減すべきと考え、異常時のみに情報を配信、必要最小限のハードウェアをソフトウェアでカバーするという方針です。

SICには2004年に入居されましたが、その頃から業界を取り巻く環境は激変しました。原油高騰の影響により、分散型発電システムのメリットである電力料

金の安さに競争力がなくなり、全国の分散型発電システムがバタバタと止まり始めたのです。QRSは大変な時期を乗り越えてきましたが、厳しい市場環境に対応すべく、現在新しい事業の検討を進めています。

岩田社長は、「今回の東日本大震災は、電力供給体制の偏り、電力が日本経済・国民生活に及ぼす影響などが如実に示され、国家的な課題となっています。電力エネルギー源に何をを使うか、という課題に加えて、

QRSの分散型発電システムのM2Mソリューション



**Quick
Response
Service**

1. 設備運用・保守管理サービス
2. 知識伝承・ノウハウ管理サービス
3. リモートメンテナンスサービス

地産地消の視点で太陽光発電や風力発電などを含めた分散型発電システムが見直されるべきではないでしょうか。そしてQRSは、貴重な電力を上手に必要最小限に使うための技術開発で社会に貢献したい」と真摯に語ります。

株式会社QRS

代表取締役 岩田 満

〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-2 1

S I C - 1 DESK ⑩

TEL : 050(3786)7922 FAX : 050(3737)2529

E-mail : miwata@qrs.co.jp

WEB : <http://www.qrs.co.jp/>

職業能力開発総合大学校

電気システム工学科 電力工学研究室 新エネルギーグループ

准教授 清水 洋隆

自然と環境と共存できる新しい電気設備の構築をめざす

1. はじめに

環境にやさしい発電方式として、太陽光、風力などの自然エネルギーや燃料電池を利用した新しい発電が注目されています。われわれのグループでは、そのような発電システムを効果的に利用するための研究や当該分野における技術者養成のための教材開発などを行っています。



2. 低炭素発電システムの実現可能性の検討

低炭素発電システムとは、太陽電池で発電した電力を負荷に供給しつつ、余剰分をバッテリーに充電するとともに、雨水オゾン処理装置でオゾン水を生成するシステムです。図1は本システムの太陽電池アレイ（出力4kW）です。オゾン水は生活用水として利用すると同時に、その一部を電気分解して水素を生成し、燃料電池の燃料として蓄えます。夜間使用する電力についてはバッテリーおよび燃料電池でまかないます。これは電力系統との電力のやり取りを最小限に抑えたシステムです。本システムの運転特性を検証することで、その実現可能性について検討しています。

太陽光発電システムとバッテリーとを組み合わせたシステムを対象として、それに適した電力変換装置を検討しています。

4. ウッドセラミックスを用いた燃料電池の開発

ウッドセラミックスは木材や紙などの植物由来の材料から製造される炭素材料です。ウッドセラミックスを燃料電池の電極に適用することで、安価で環境負荷が小さい燃料電池の開発を目指すとともに、ウッドセラミックスの新たな可能性について検討しています。研究の結果、燃料電池の電極として広く用いられているカーボンペーパーやファインカーボンと同程度以上の特性が得られることを確認しています。また、ウッドセラミックスのライフサイクルアセスメント（LCA）も行い、環境に及ぼす影響の評価も行っています。

5. セミナーの実施および教材開発

研究を通して得られた知見をもとに、関連する分野の技術者を養成するためのセミナーを実施したり、教材を開発したりしています。以下にテーマの一例を示します。

太陽光、風力発電および
燃料電池発電の基礎

太陽光発電用パワー
コンディショナ製作・評価

固体高分子形燃料電池の
MEAの製作・評価

3. 電力貯蔵用電力変換装置の開発

自然エネルギーを利用した発電システムが大量に導入された場合、出力を安定させるために電力貯蔵技術が必要です。まずは、

その他、われわれのグループは、SIC燃料電池研究会のメンバーとして活動に参加しています。

相模線で大風を訪ねる！

JR相模線、相武台下駅下車、徒歩10分。れんげ咲く水田に相模の大風センターがあります。このセンターでは、天保年間（1830年から1844年）から行われてきた相模の大風を見ることが出来ます。また、歴代の大風の文字を紹介したミニ風の展示があり、当時の大風を揚げていた人々の大空への願いを知ることが出来ます。今年は見送られますが、相模川で五月の大空を舞う大風の姿は圧巻です。





SIC燃料電池研究会

Sagamihara Incubation Center. Fuel Cell Laboratory

SICでは、低炭素社会構築に向けた次世代リーディング産業の創出支援の仕組み「SIC燃料電池研究会」において、燃料電池を含め太陽光発電など新エネルギーのハイブリッド化と熱エネルギーの有効利用などによる低炭素技術の開発を目指した活動を行い、さらなる温室効果ガス削減の追及とシステムの最適化を目指しています。

昨年度の活動では、太陽光追尾発電システムや水素吸蔵合金の水素放出・吸蔵性能の高効率化を実現するための研究開発を推進し、本年度も、装置設計及び熱交換素子の最適化を行い、燃料電池発電時に起こりがちな水素吸蔵合金の温度低下による水素放出停止を抑え、水素充填時における温度上昇を防ぐことにより、連続した発電と燃料補給時間の短縮を目指しています。

テクニカルショウヨコハマ及び国際水素燃料電池展への出展

平成23年2月2～4日テクニカルショウヨコハマ、平成23年2月2～4日国際水素燃料電池展へ研究会成果を出展。



平成23年度 SIC燃料電池研究会 会員募集

参加資格: 法人又は大学及び研究機関
(法人の場合は参加者を指定)

年会費: 研究会会費は、ご希望のメニューからの選択方式による単位数取得方式となっていますので、詳細は下記へお問い合わせください。

お問い合わせ先: 株式会社さがみはら産業創造センター 企画事業部 永井
SICホームページでは、これまでの活動をご紹介します。

4月～ SICイベントカレンダー

2011年4月～

2011年4月24日 アントレ・インターン募集説明会

5月 8日 アントレ・インターン募集説明会

5月11日 「相模原市新卒未就職者等人材育成事業」説明会&相談会(パナソニック)

6月1日～10日 子どもアントレ・ジュニアアントレ募集期間(予定)

子どもアントレ実施予定日(8月17,19,20,21日)

ジュニアアントレ実施予定日(8月5,6,8,10,11日)

6月18日 ISB公共未来塾開校(予定)

knock!
knock!

入居企業を募集してます。

SIC 空室情報 (4月20日現在) SICまでお気軽にお問い合わせください。(賃料: 共益費込み)

	部屋	空室数	賃料(月額)
SIC-1	ラボ	94.5㎡ 2	235,515円
SIC-2	(空き室なし)		
SIC-3	全室募集中! 詳しくはHPをご覧ください。		



評価用燃料電池



太陽光追尾発電システム



吸放出性能の優れた水素吸蔵合金容器の開発



電磁ポンプ

吸放出性能の優れた水素吸蔵合金容器の開発

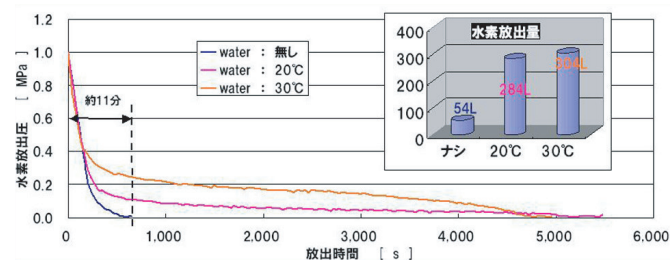


カブラ: 日東工器(株) 殿ご提供品

熱交換チューブ断面



※本データは、水素流量3NL/minにて計測した結果です。



水素貯蔵量『300L(1MPa以下)』

本開発品1本において500Wクラス燃料電池の連続運転が可能です。

当開発品は、KYB 株式会社と株式会社リガ
ルジョイントのコラボレーションにより実
現しました。

KYB
Our Precision, Your Advantage

RGL
JOINT

編集
後記

この度の東日本大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い被災地の復旧を心よりお祈り申し上げます。戦後の試練を乗り越えてきた日本人は、今回の予期せぬ事態を時間がかかっても乗り切れると信じています。今年もSICでは、インターンシップ、ジュニアアントレ、子どもアントレを開催します。次世代を担う若者や子ども達の一生懸命な姿に私たち大人は元気づけられ、勇気をもらいます。どうぞ、今年も応援をよろしくお願いいたします。(広報担当)



★ご意見・ご感想をお待ちしています。

(株)さがみはら産業創造センター(SIC) 〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077 E-mail: koho@sic-sagamihara.jp

ウェブサイト <http://www.sic-sagamihara.jp/>